

## 河上正秀先生を送る

筑波大学倫理学研究会の有力メンバーである河上正秀教授が、このたび定年を迎えられ、平成十九年三月末をもって筑波大学を退職されます。そこで本研究会は、研究誌『倫理学』第二三号を「河上正秀先生退職記念論集」として刊行し、これを先生に献じることいたしました。

河上正秀先生は、キルケゴールからハイデガーへといたるドイツ実存思想の研究に専念され、一九九七年には論文『ドイツにおけるキルケゴール思想の受容——二〇世紀初頭の批判哲学と実存哲学』によって筑波大学から博士の学位を授与されました。

先生が筑波大学に着任されたのは、一九八七年のことでした。私が先生とお付き合いをさせていただくようになってからはこのとき以来ですから、もう二十年ものお付き合いということになります。着任以来、先生はその温厚なお人柄によって学生や大学院生を魅了するとともに、一貫して筑波大学倫理学研究会の活動と運営に熱心に取り組まれ、本研究誌『倫理学』の編集と刊行に対しても心血を注いでご指導、ご助言をなされてきました。その恩恵は甚大であると申さなければなりません。ここに倫理学研究会として、先生のご履歴、ご業績を掲載させていただき、先生に対して謝意を表する次第です。

先生の今後益々の研究のご発展とご健勝を祈念いたします。

なお、私はこの記念すべき論集にぜひ拙論を献じたいと思ひ、鋭意準備をしておりましたが、一月末に不覚にも左上腕を骨折し、入院・手術を余儀なくされました。そのために寄稿の念願が果たせなくなったことが、残念でなりません。この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

平成十九年三月

筑波大学倫理学研究会を代表して

笹澤

豊